

# 私の紙面批評

弁護士

清源 万里子

## 子育て みんなで支えて

女性1人が生涯に産む子どもを推定人数を示す合計ひとり親家庭にとつて大変な出生率。2018年は心強い存在だ。また、第一1・42で、3年連続の減少となった。出生数も統計開始以来、最少となる91万8397人となり、こちらも3年連続で100万人を割り込んだ。

少子化の背景には、晩婚化や共働き世帯の増加、若い世代が経済的に余裕がない

「子どもサポートタクシー」を始めている。通常のタクシー料金で利用できる。送迎が完了すると保護者に連絡が平等に行うものだが、実

「きよもと・まりこ」1981年、中津市生まれ。2008年弁護士登録。11年大分県弁護士会、日本弁護士連合会・犯罪被害者支援委員会委員。現在、子育ての真っ最中。

女性1人が生涯に産む子どもを推定人数を示す合計ひとり親家庭にとつて大変な出生率。2018年は心強い存在だ。また、第一1・42で、3年連続の減少となった。出生数も統計開始以来、最少となる91万8397人となり、こちらも3年連続で100万人を割り込んだ。

少子化の背景には、晩婚化や共働き世帯の増加、若い世代が経済的に余裕がない

「子どもサポートタクシー」を始めている。通常のタクシー料金で利用できる。送迎が完了すると保護者に連絡が平等に行うものだが、実



（きよもと・まりこ）1981年、中津市生まれ。2008年弁護士登録。11年大分県弁護士会、日本弁護士連合会・犯罪被害者支援委員会委員。現在、子育ての真っ最中。

いなど、さまざまな要因がある。子育てがしやすい環境を整えることで、多少なりとも抑制できると思う。が、それには地域や職場など社会全体で支える仕組みが必要だ。

4月に中津市新瀬にオープンした「なかつ病児保育室セカンド・ママ」は、子どもを病気発症時から回復期まで、預けることができ

も子育てを支援する魅力的な取り組みが広がっているのはうれしいことだ。こうした子育ての魅力は今後もどんどん伝えてほしい。

現状や課題を伝えることも重要だ。育休を率先して取得している男性の育児生活を取り組んだり、男性の育児参加を後押ししている企業の取り組みを紹介する記事も見てみたい。

子どもは社会の宝。子育てはとても楽しいし、子育てを通して大人が学ぶことも多い。本紙には、こうした子育ての魅力は今後もどんどん伝えてほしい。